

1 貧困を
なくそう



2 飢餓を
ゼロに



1.2

2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。

2.1

2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。

芦田 麗子

医療保健学部
口腔保健学科

多世代型地域食堂におけるフィールドワーク 子どもたちの笑顔につながる研究と支援

母子家庭の貧困問題について研究をしています。時間的にも経済的にも余裕がないシングルマザーが大人ひとりで子どもを育てる環境下では、子どもを愛していても子どもにあたって暴言を吐いてしまうなど、虐待への誘発も懸念されます。また、余裕がないため友達からの誘いを断るうちに孤独になってしまうママも少なくありません。貧困は人間関係の貧困にもつながるのです。2021年から、身体にもこころにも栄養を届ける活動を目指して、「おかえりキッズ応援団」を立ち上げました。活動のひとつである「ごはん処おかえり」は、営業時間中は20歳以下の未成年の子供さんはいつでも無料でご飯を食べられる「こども食堂」です。また、生活に困窮している大人の方の利用もできます。本当に困っている人に「届く」支援活動を続けていきたいと思っています。

message

シングルマザーだけではなく、誰も一人ぼっちにしない社会をつくるのができたらと考えます。社会福祉や教育に関わる人間として、すべての人々の健康で文化的な生活が実際に保障されるような社会づくり、学生の意識づくりを行っていきたい。

ごはん処 おかえり

